

様式(細則 5-2)

令和 8 年 6 月 2 日

浜田市議会議長 様

議員名 柳楽 真智子

## 調 査 研 究 活 動 報 告 書

下記のとおり調査研究のため視察を行ったので報告します。

### 記

1. 視察先

鳥取市教育委員会 鳥取県鳥取市幸町 71 番地

2. 視察事項

オンライン英語授業の取組について

3. 視察の目的（市政との関連など）

世界の共通言語となっている英語を身に付けることで、子どもたちの将来の選択肢が広がることを期待されることから、先進事例を学び浜田市の取組の参考にするため。

4. 期間（移動日を含む）

令和 8 年 5 月 20 日（水） 11:00 ～ 12:00

5. 経費

14,390 円

（経費内訳 交通費 14,390 円）

6. 視察のポイント・議員活動や市政への反映など

学力向上だけを目的とするのではなく、英会話を通じて英語を身近に感じingことを重視した取組は、苦手意識の改善に繋がり成長に影響すると考えることから、導入について提案したい。



## 7. 視察内容

### 【鳥取市の外国語教育についての考え方】

- ・「自分の考えや気持ちを英語で伝え合う力を高める」「コミュニケーション能力を育てる」が大きな目標。
- ・そのために、小学校1年生からALT、地域人材、デジタル教科書、オンライン英会話などを活用して中学校3年生まで、段階的・継続的な学びの場を設定。

### 【オンライン英会話事業の目的】

- ・オンライン英会話は「授業で学んだ英語を実際に使う場」。
- ・知識だけではなく英会話の経験を積むことに意義づけ。

### 【導入の背景】

- ・コロナ禍により新規ALTが来日できない学校が発生し生徒の英語を話す機会が不足。
- ・オンラインを活用し海外在住の講師と直接会話する機会を創出。(継続的な学習環境を確保)

### 【導入の背景】

- ・R4年に市内3中学校でモデル的に実施。
- ・試行において①生徒の発話量の増加②話すことの意欲向上③英語への抵抗感減少が見られた。
- ・R5年から市内全中学校・義務教育学校に拡大。
- ・モデル時は、1～3年生年間12回で実施したが、回数が多すぎて授業時間を圧迫。
- ・全校展開時は、2～3年生年間5回(2年生)4回(3年生)で実施。

### 【実施状況】

- ・対象は中学校2年生、3年生、義務教育学校8年生、9年生。
- ・Google Meetで1人1台端末を活用。
- ・字幕・チャット機能で生徒が安心して参加できている。(ここがポイント)
- ・中学2年、義務教育8年はマンツーマンを2回、グループ(1対3)を3回。
- ・中学3年、義務教育9年はマンツーマンを2回、グループを2回。
- ・当初はマンツーマンのみだったが、全く話せない生徒がいたことからグループで実施。友達と助け合いながら安心して取り組むことができ、話せない生徒も発話できるようになったことからグループでの回数を増やした。
- ・レッスンは1回あたり25分  
自己紹介などウォーミングアップ(5分)トピックに関する対話(10分)学習した文法等を活用した発信(10分)の構成
- ・導入当初は、授業とは別枠の「英会話教室」となりがちとなり普段の授業との接続が薄かった
- ・そこで、教材を修正してもらって、授業で学んだ表現を「実際に使う場」として活用

### 【事業効果】



- ①英語を話すことの心理的ハードル（抵抗感）が減少。
  - ②間違いを恐れず、知っている単語やジェスチャーを交え自分の思いを伝えようとする姿勢が出てきた。
  - ③前向きに参加し英語を話す楽しさを実感する生徒が増加 といった生徒の変化が見られた。
- ・特に1対3のグループ形式が効果の増進に役立っている。

#### 【今後の課題】

- ・授業で学んだ内容との接続のさらなる改善
- ・限られた時間内で生徒が発話する時間をどう増やすか
- ・通信環境や端末トラブルへの備え
- ・委託先と緊密に連携し、常にアップデートできる体制がとにかく必要

#### 【今後の方向性】

- ・知識として学ぶだけではなく「自分の考えを英語で伝えようとする力」の育成に注力。
- ・授業との接続の一層の強化を図り、実際に英語を使う場として継続して活用したい。
- ・生徒の実践的なコミュニケーション能力の育成を図る。

#### 【質疑応答】

Q：特別支援の子どもたちへの支援は？

A：導入がなかなか進まなかったが、R6から教材のレベルを引き下げ、回数を減らし年2回グループのみで実施。1回の時間もこだわらずに実施している。

Q：教員の負担は？

A：当初は準備に時間をかける教員もあったが、教員が何もしなくてもできるようにしてほしいと事業者伝え教材を改善してもらった。

Q：授業での教員の負担は？

A：オンライン学習前の導入と終了後の振り返りなど基本的には1名でできている。

Q：予算はどのくらい必要か？

A：年間1,000万円弱。

Q：事業者の選定方法は？

A：公募型プロポーザル方式で決定（㈱インタラックと1年契約で事業効果を見て最大2年間延長。（3年ごとに改めてプロポーザル実施する予定）

Q：不登校の生徒は参加できるか？

A：自宅につなげることは可能だが、実態としては難しいと考えている。

Q：学力への影響は？

A：まだわからないが、英語が好きという生徒は増えてきている。

Q：回数はこれが適切と考えるか？

A：適切と考えている。増やすとなると授業に影響が出る。

Q：高校での継続した取組を必要と考えるか？

A : 高校ごとに英語学習の考えが違うので一概に言えない。オンライン英会話授業により ALT との会話に尻込みしない生徒が増えていると考える。

Q : 1 年生で実施しない理由は？

A : 小学校 1 年生からの系統的な学びの中で、小学校 5 年生から中学校 1 年生までは ALT の積極活用の方がベターだと考える。

Q : オンライン英会話授業の評価は？

A : 直接的な学力向上に有効というよりも英語が好きになるきっかけに有効という実感。

Q : オンライン英会話と ALT との役割分担

A : ALT には、学年に応じた役割を求めており中 2、中 3 でも活用している。(オンライン英会話授業にも立ち会っている) オンライン英会話授業が入ったから、ALT は不要だとはならない。